

3 社会との連携，国際交流等に関する目標（大項目）

（1）中項目1「社会との連携，国際交流等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目1「社会との連携，協力に関する基本方針：社会が抱える多様な課題を解決するために，総合大学の利点を活かし，大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に，積極的に地域社会との双方向的な連携を目指す。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画1-1 ●83「岡山大学が有する教育機能を活用し，地域教育機関と連携して社会や地域の文化的発展に貢献するとともに，早急に情報のデータベース化の整備を図り，教育に対する社会のニーズに積極的に応える。」に係る状況

本計画の取組として，「教育連携協議会」（本学・岡山県下公立高校担当者・岡山県教育委員会）（資料83-1）で明らかとなった問題点や要望事項を検討し，学内に「地域連携専門委員会」を設置し受入体制を整備するとともに，高大連携事業の基本方針（別添資料83-1 高大連携事業に関する基本方針）及び公開講義に関する申合せを合意し，本学ウェブサイトへ高大連携のウェブサイトを開設した（資料83-2）。これにより，高校生・保護者の大学訪問，本学教員による出前講座等の連携事業件数が着実に増加している（資料83-3）。また，高校生が本学の5限の講義を聴講できる公開講義の科目・曜日を拡大して実施した他，夏休み期間中に実施している「高校生のための大学講座」についても，高校生に大変好評で参加者が年々増加している。

第2の取組として，地域教育機関との連携強化として，岡山県生涯学習センターと連携した生涯学習大学大学院コース「生涯学習とまちづくり」を公開講座として開講し，地域の指導者養成のため，生涯学習の指導やボランティア活動についての基礎知識を提供している。当該講座は，本学の教養教育科目として本学の学生の履修を可能としている。

また，「社会人の方への学習制度（社会人のための大学案内）」のパンフレットを刷新した他，ウェブサイトも連動して更新を行い，本学の開講科目に関するシラバスをリンクさせる等，外部からのアクセスを容易にした。

さらに，公開講座の中から一部の講座について，e-Learning教材を作成し，ウェブサイトでご公表し，実際に大学に来る機会が得られない学習者の学習ニーズにも応えられるようにした（資料84-1:P191）。

附属図書館では，教育学部と連携して小中学生を対象とした古絵図を利用した後楽園ワークショップ（資料83-4）を平成18年度から年2回ずつ実施し，平成19年度第2回目には定員を超える参加者があり，着実に地域に周知されつつある。また，平成9年度から実施している池田家文庫絵図展は，平成17年度に岡山市と「文化事業協力協定」を締結したことにより，岡山市デジタルミュージアムに会場を移し開催しており，平成18年度は約6,800名，平成19年度は約2,600名の来場者があった（資料83-5）。この中には市内中学生の校外実習での来場もあり，生涯教育や初等教育への貢献を果たしてきている。

別添資料83-1 高大連携事業に関する基本方針

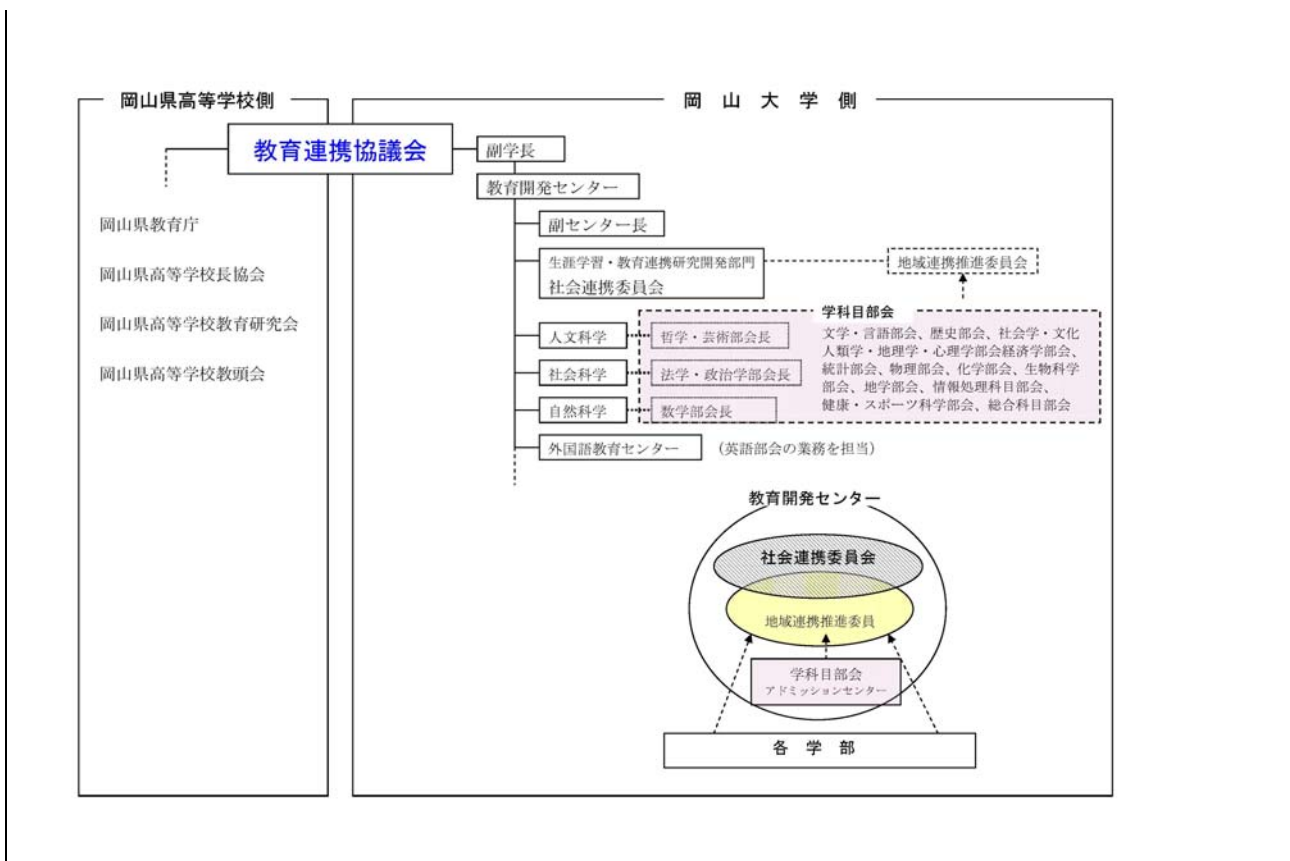
資料83-1：教育連携協議会設置に関する協定書（抜粋）

（目的）

教育連携協議会は，高等学校と大学との「教育連携」に関連する諸課題に関する協議及び情報交換を行うことにより，高等学校と大学との教育接続の改善をめざすことを目的とする。

（協議事項）

- 1 教科科目の教育接続に関する事項
- 2 教育連携事業に関する事項
- 3 その他必要と認める事項



(出典：事務局資料)

資料 83-2：高大連携のウェブサイト



(出典：本学ウェブサイト)

資料 83-3：高大連携事業関係事業の実施状況

◎高大連携事業関係				
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
大学訪問	26 校 1,796 名	23 校 2,034 名	35 校 3,323 名	26 校 3,065 名
出前講義	13 校	34 校	33 校	40 校
その他		7 件	12 件	6 件

※その他：岡山県高等学校教育研究会各教科部会への講師・教員の派遣，学生派遣，高校教員視察等

◎高校生のための大学講座				
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
参加人数	120 名	130 名	132 名	236 名

◎岡山一宮高等学校生徒の理学部での授業聴講

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
参加人数	4名	9名	11名	7名

※平成17年度以降 対象を県内高等学校に拡大
 ※平成19年度以降 水曜日を除く各曜日に10学部を対象に拡大

(出典：事務局資料)

資料 83-4：平成19年度後楽園ワークショップ募集パンフレット

池田家文庫 こども向け岡山後楽園発見ワークショップ

ステップ1
巨大絵図を観察しよう。
紙芝居もあるよ！

巨大絵図の上をお隠れ気分であるいたり、紙芝居を聞いて、昔の後楽園についてものしり博士になろう。

ステップ2
庭園を探索して、絵マップを作ろう！

デジタルカメラと絵図をもって後楽園を歩いて、今と昔を比べてみよう。みんなで発見したことの巨大絵マップを作ろう。

ステップ3
発見したことを、みんなに発表しよう。

ワークショップで発見したことを、一緒に参加しているお友達に教えてあげよう。

参加者募集!!

応募資格
4年生以上の小学生（保護者同伴）・中学生

応募人数
子ども30名程度

参加者の決定
先着順に受け付けて、定員程度で締切ります

応募要項（事前予約者・優先）
申込用紙に記入の上、右記問い合わせ先までFAXするか、必要事項を記入したE-mailをお送りください。

応募締切
定員になるまで受け付けます。

問い合わせ先
岡山大学附属図書館 参考調査係
 岡山市津島中3-1-1
 TEL: 086-251-7322
 FAX: 086-254-6152
 E-mail: fbg7322@adm.okayama-u.ac.jp
 URL: http://www.lib.okayama-u.ac.jp/edc

IKEDAKE BUNKO - OKAYAMA KOURAKUEN

池田家文庫 こども向け岡山後楽園発見ワークショップ

参加者募集!!

岡山後楽園は、江戸時代に作られた日本を代表する大名庭園です。岡山大学のお兄さん・お姉さんと一緒に、後楽園を探索したあとに巨大絵図（複製）の上を歩いて、後楽園の今と昔を発見します。

日 時：平成19年12月9日(日) 10:00～12:30 雨天決行
会 場：岡山後楽園 鶴鳴館および園内
集 合：岡山後楽園 正門前(9:30～受付)
対 象：小学4年生以上の小学生（保護者同伴）・中学生
人 数：子ども30名程度
予 約：裏面に申込書があります。
参加料・入園料：無 料

会場地図

主 催：岡山大学教育学部・岡山大学附属図書館

(出典：事務局資料)

資料 83-5：平成19年度池田家文庫絵図展パンフレット

第19回全国生涯学習フェスティバル まなびピア岡山2007協賛事業

池田家文庫絵図展

陸の道

平成19年11月16日(金)～12月2日(日)
 岡山市デジタルミュージアム(岡山市駅元町15-1)

岡山大学附属図書館 岡山市デジタルミュージアム

「池田家文庫絵図展」テーマ一覧

平成9年度	絵図にみる岡山城
平成10年度	岡山藩と海の道
平成11年度	後楽園と岡山藩
平成12年度	備前慶長国絵図のふしぎ
平成13年度	岡山藩江戸藩邸ものがたり
平成14年度	開けゆく岡山平野
平成15年度	新田開発をめぐる争い
平成16年度	岡山城下町をあらく
平成17年度	江戸時代の岡山
平成18年度	戦さと城
平成19年度	陸の道

(出典：事務局資料)

計画 1-2 ●84 「岡山大学が所有する研究資料や研究成果等の公開，公開講座等の実施，リカレント教育の推進，サテライト教育の拡大・充実など，地域における生涯学習の拠点としての責務を果たす。」に係る状況

本計画の取組と成果として，教育開発センター社会連携委員会において，本学が実施している生涯教育関連として，公開講座に関するもの，リカレント教育に関するもの，さらにサテライト教育についての資料を収集し，本学で実施予定の全公開講座をウェブで公表するとともに（資料 84-1），生涯学習のためのプログラムとして「岡山大学公開講座案内」を作成して，岡山県，近隣市町村や県内の公民館，文化施設，高等学校等へ配布し参加を促している。また各公開講座受講者に対して，共通のアンケートを実施し，この結果を生涯学習推進を図るための具体的施策立案に活用している。その結果，多数の受講者を得ている（資料 84-2）。

さらに，平成 19 年度には，岡山県と連携し，「第 9 回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山」に公開講座を協賛参加し，生涯学習見本市の展示ブースに出展した（資料 84-3）。

また，附属図書館では，平成 17 年度から岡山大学学術成果リポジトリを構築し，岡山大学の研究成果を蓄積し地域及び世界にむけて公開している。この中の地域・国内向けのリポジトリシステムは，岡山県立図書館の「デジタル岡山大百科」からも検索でき，研究成果が読めるよう連携・整備を行い，地域社会に向けた情報発信を強化した結果，年間 16 万を超えるアクセス数がある（資料 84-4）。また平成 19 年には岡山大学出版会を設立し，査読組織の確立等基礎的なシステム整備を進め，書籍及び絵はがき各 1 点を刊行した。これにより，従来は困難であった書籍による教育研究成果の公開が可能となった。

その他の地域における生涯学習の拠点としての主な取組は資料 84-5 のとおりである。

資料 84-1：岡山大学公開講座ウェブサイト

公開講座案内

岡山大学公開講座 スポーツ講座 地域連携講座 在学生及び卒業生のための資格取得支援講座

過去三年間の公開講座データ 公開講座視聴サービス

平成19年度岡山大学公開講座

講座名 (各字は詳細をPDFにて掲載)	講座の概要	募集期間	開催期間	曜日	開講時間	受講料	受講対象者	定員人数	問い合わせ先
健康と探検 二 未来二	本学の全学公開講座は「健康と探検」をメインテーマとしてシリーズで開講しています。今年は，健康と探検の啓発活動についてさまざまな分野からわかりやすく解説します。	9月1日 ～9月30日	10月6日 ～11月3日	土	13:30 ～16:45	2,500円 高校生無料	一般の方	50名	学務部学務企画課 (086-251-7186)
日本語を見つめなおす	私たちの日常生活において，日本語は必要不可欠であるにもかかわらず，普段意識して使うことはあまりないのではないかと，日本語はもはや日本人だけでなく，多くの外国人にとっても生活に必要な言語となっています。世界の言語の一つとして日本語はどのような特徴を持っているのか，日本語はどのような歴史をたどり現在に至るのか，日本語はどのような仕組みや機能を持っているのか，日本語は今，どのように変化しようとしているのか，私たちの身近な存在である日本語をさまざまな角度から眺め，見つめなおしてみませんか？	6月14日 ～6月11日	6月10日 ～7月8日	日	13:30 ～16:00	無料	一般の方	100名	社会文化科学研究科等庶務係 (086-251-7345)
	企業法務の理解をなす「商法第二編会社」に関しては，平成9年商法改正以降，毎年のように議員立法等による緊急立法が相次いでいたのですが，平成17								

(出典：事務局資料)

資料 84-2：各種公開講座実施状況一覧（平成 19 年度実績）

◇岡山大学公開講座								
講座名	実施部局	開催期間	受講対象者	開講日数	時間数	受講料	募集人数	受講者数
健康と環境 ー未来ー	全学	10月6日～11月3日	一般の方	5日	13.5	2,500円※高校生は無料	50名	31
日本語を見つめなおす	文学部	6月10日～7月8日	一般の方	5日	12.5	無料	100名	109
企業と法	法学部	6月30日～7月28日	一般の方・大学生・高校生	5日	10	1講義500円、大学生及び高校生は無料	70名	72
経済の課題とパースペクティブ	経済学部	11月17日～12月15日	一般の方	4日	12	1講義1,500円 全講義5,000円	30名	19
ヨーロッパの共生思想	社会文化科学研究科	10月6日～11月10日	一般の方	5日	11	無料	100名	67
育てて食べようおいしい夏野菜ー家庭菜園のツボー	農学部附属山陽園フィールド化学センター	4月19日～9月6日	一般の方	12日	22	10,000円	15名	15
生命と環境のかかわり	資源生物科学研究所	5月26日～6月2日	一般の方(高校生以上)	2日	6	無料	50名	53
Green Sustainable Chemistry ～環境に優しく、持続可能な社会構築のために～	環境理工学部	9月1日～2日	一般の方	2日	9	無料	60名	50
農学を通してブドウの味に触れるー食味・香りと栽培ー	農学部	9月1日、9月8日	一般の方	2日	10	2,000円(ただし、中学・高校生は500円)	30名	27
自然科学の最先端ーいろいろないきものから学べることー	理学部	9月29日～30日	一般の方・高校生	2日	9	無料	50名	56
現代の薬学(第19回)	薬学部	6月24日	薬剤師・一般の方	1日	6	6,200円	50名	59
岡山健康講座2007ーやさしい保健と健康の話ー	医歯薬学総合研究科等	7月26日～8月2日	一般の方	5日	7.5	無料	50名	76
生涯学習としての言語 Lifelong language learning	外国語教育センター	10月24日～11月21日	大学生・教員・一般の方	4日	8	無料	70名	120(延べ)
世界の生涯学習 Lifelong learning around the world	外国語教育センター	12月5日	大学生・教員・一般の方	1日	2	無料	120名	80
木工教室Ⅰ(中級:自由課題)	教育学部	5月16日～8月8日	家庭で日曜大工等を趣味にされている方、または始めようとしてされている方、個人ごとの自由課題とするため、自分なりに課題を考えられる方	8日	24時間	12,000円	6名	6
陶芸教室(中級)	教育学部	8月3日～8月5日	陶芸を本格的に勉強したいという意欲のある方	3日	21	9,000円(別途材料費約2,000円が必要)	10名	12
木工教室Ⅱ(中級:パタフライ・ティーテーブル)	教育学部	10月13日～1月26日	家庭で日曜大工等を趣味にされている方、または始めようとしてされている方	8日	24時間	12,000円	8名	9
親子で取り組むダイエット教室	教育学部	6月16日～12月1日	小学校3年生～6年生の児童(肥満度20%以上)とその保護者	10日	20	10,000円	親子10組	4
ジュニアテニス教室	教育学部	7月24日～8月9日	初心・初級レベルの小学5年生以上のジュニア及びその保護者	8日	20時間	8,000円(別途傷害保険加入料が必要)	24名	24
ジュニア体操教室	教育学部	8月1日～8月10日	小学生(原則として3～6年生)	7日	20	8,000円(別途傷害保険加入料が必要)	30名	47
レスキューロボットの世界へようこそー見て・触れて・体験してー	工学部	8月9日～10日	小学校高学年以上(ただし、小学生は保護者同伴でお願いします)	2日	6	無料(材料費として2,000～3,000円程度徴収します。)	20組(応募者多数の場合は抽選になります。)	20
コンピュータ入門(朝のコース)	総合情報基盤センター	8月6日～8月31日	一般の方	10日	20	8,500円	65名	48
コンピュータ入門(昼のコース)	総合情報基盤センター	8月6日～8月31日	一般の方	10日	20	8,500円	65名	30
スポーツ講座	スポーツ教育センター	月1～3回	岡山大学学生及び高校生、一般の方	18日	27	無料	各回100名程度	のべ1,113名

◇地域連携講座									
講座名	実施部局	開催期間	受講対象者	開講日数	時間数	受講料	募集人数	受講者数	
岡山県生涯学習大学 大学院コース「生涯学習とまちづくり」	全学	9月1日～11月24日	岡山県民	8日	15	2,000円	30名	13	
玉野市民成人教養講座「医療の進歩と健康づくり」	医歯薬学総合研究科等	7月26日～8月2日	玉野市民	5日	7.5	3,000円	60名	35	

◇ジュニア向け講座									
講座名	実施部局	開催期間	受講対象者	開講日数	時間数	受講料	募集人数	受講者数	
大学Jr.サイエンス事業「身近な秋の果物味わいを科学する」	農学部附属山陽園フィールド化学センター	10月6日、27日、11月10日	小学生20名とその保護者	3日	9	無料	小学生20名とその保護者	17	
大学Jr.サイエンス事業サタデーサイエンスセミナー「きみも未来博士になろう」	理学部	11月10日、17日	岡山県内在住の小学4～6年生、中学生、および保護者	2日	8.5	無料	のべ100名程度	41	

(出典：事務局資料)

資料 84-3：生涯学習まなびピア

【本学の出典ブース】

- ・「バリアフリーによる双方向スポーツ教育活動」って何でえ？
- ・学ぼう！知っておこう！岡山大学
- ・実践型ものづくり体験プロジェクトー学生フォーミュラ活動ー
- ・岡山大学教育学部における教員養成の現状と展望

(出典：第19回全国生涯学習フェスティバル実行委員会資料)

資料 84-4：岡山大学学術成果リポジトリ

平成18年度CSI委託事業（領域）優良事例に選抜された。

（8）地域リポジトリ

広島大学・長崎大学では県内大学との共同リポジトリ構築に向け、共同研修会を催すなどの取り組みを立ち上げており、山形大学（山形県内）・名古屋大学（東海地区全体）でも準備が進んでいる。また岡山大学は、「デジタル岡山大百科」を運用している岡山県立図書館と協力して、地域・国内向けリポジトリ（ePrints@OUDIR）の立ち上げ、「デジタル岡山大百科」からのハーベストを平成19年4月1日からスタートする予定である。

（国立情報学研究所 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業中間まとめ P14）

（出典：事務局資料）

資料 84-5：その他の主な取組

- 現職教員等のリカレント教育
 - 「算数・数学教育指導力向上事業」「夏期研修講座」「10年経験者研修講座」「英語教員資質のための研修」「スーパーサイエンスパートナーシップ」「家庭科教員の資質向上のための研修講座」を実施
 - 「夏期研修講座」には県内外から毎年多くの学校教員、大学教員、指導主事、教職希望学生が参加し、また、「10年経験者研修」には、教育学部教員17名を講師として、122人の学校教員が受講
- 再チャレンジ教育支援プログラム
 - 社会文化科学研究科「再チャレンジのためのサイバー大学院プログラム」
 - 自然科学研究科「社会人の技術者キャリアアップ再チャレンジ支援プログラム」
 - 保健学研究科「「看護師」「助産師」再生のための専門教育支援プログラム」
- 考古資料展示室（埋蔵文化財調査研究センター）
 - 考古資料を常設展示するとともに、学内外において発掘成果展や特別公開を開催
- 研究推進・産学官連携機構（社会連携センター）
 - サイエンスカフェ等の開催

（出典：事務局資料）

b) 「小項目1」の達成状況

（達成状況の判断） 目標の達成状況が非常に優れている。

（判断理由） 教育連携協議会（岡山大学・岡山県下公立高校担当者・岡山県教育委員会）を立ち上げて、大学と高等学校、教育委員会との連携の組織を通して、緊密な高大連携事業等が推進されている。また、本学で実施される全ての公開講座を取りまとめ、生涯学習のためのプログラムとして「岡山大学公開講座案内」及び「公開講座冊子」を作成し、岡山県及び近隣市町村や県内の公民館、文化施設、高等学校等へ配布するとともに、インターネット上での情報発信を可能とした。さらに、一部の公開講座について、e-Learning教材を作成し、ウェブサイトで公表し、実際に大学に来る機会が得られない学習者の学習ニーズにも応えられるようにした。平成19年度には、岡山県と連携し、「第9回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山」に公開講座を協賛参加し、生涯学習見本市の展示ブースに本学の生涯学習や公開講座のブースを出展した。研究関連については、社会連携センターを中心とした積極的な地域貢献事業を展開するとともに、岡山大学学術成果リポジトリの構築及び岡山大学出版会の設立により、本学の教育研究の成果を広く社会に還元する仕組みを整えた。

○小項目2「産学官連携の推進に関する基本方針:岡山大学が蓄積してきた知的財産等を活用し、社会との連携協力を積極的に推進する。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画2-1 ●85「共同研究, 受託研究等, 産学官の連携による研究の推進を図るため, 研究推進・産学官連携機構の充実を図る。」に係る状況

産学官連携強化を目的に, 地域共同研究センターを平成18年度から研究推進・産学官連携機構の産学官連携本部に組み入れ「産学官融合センター」に改組するとともに専任教員の配置を行った。また, 本部長会議を開催し情報の統一・共有化を行い社会との連携推進の体制強化を図った(詳細は資料58-1:前出P140)。

産学官連携本部(産学官融合センター)では, 企業との連携を推進するための各種取組(資料72-1:前出P169)を実施するとともに, 企業等との包括協定を締結し産学官の連携の強化を図っている(資料85-1)。

社会連携本部(社会連携センター)では領域コーディネータ等による外部からの相談受付やサイエンスカフェ開催など各種取組を実施している(資料85-2)。

また, 共同研究等の受入れから契約までの一連の手続きの効率化を図るため, 津島地区では研究交流部に産学連携推進課を設け受入から契約までを1課とする体制にし, 本部で一元的に取り扱うことで迅速に対応ができるようになった。

このような取組の結果, 共同研究, 受託研究等の増加に繋がっている(資料56-3:前出P135)。

資料85-1:包括協定一覧

<p>○包括協定による連携</p> <p>金融機関 (4件)</p> <p>目的: 本学の研究成果等のシーズと企業ニーズのマッチングの仲介や, 人材育成, 大学発ベンチャー企業の育成等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国銀行(平成16年度) ・中小企業金融公庫(平成17年度) ・おかやま信用金庫(平成18年度) ・トマト銀行(平成18年度) <p>公益法人 (1件)</p> <p>目的: 地域における互いの情報, ノウハウを結びつけ, 相互の発展及び地域の発展等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県中小企業団体中央会(平成17年度) <p>国 (2件)</p> <p>目的: 教育研究面の向上と地域社会への貢献等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国地方整備局(平成17年度) ・中国四国農政局(平成18年度) <p>独立行政法人 (1件)</p> <p>目的: 双方の研究施設, 研究成果, 人材等を活かし, 研究及び人材育成の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本原子力研究開発機構(平成19年度) <p>企業 (5件)</p> <p>目的: それぞれの有する資源の相互利用と人的交流により得られた研究成果の活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国飼料株式会社(平成16年度) ・イセ食品株式会社(平成16年度) ・同和鉱業株式会社(平成17年度) ・三井造船株式会社(平成18年度) ・両備グループ(平成18年度) <p>その他 (2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)岡山県産業振興財団(岡山TLO)(平成16年度) 目的: 技術移転の促進等 ・(社)中小企業診断協会岡山県支部(平成19年度) 目的: 相互に協力して, 地域の産学連携を推進し地域社会の発展に貢献 <p>※ () 内は包括協定締結年度</p>
--

(出典:事務局資料)

資料 85-2 : 社会連携センターによる主な取組

○サイエンスカフェ ※ () 内は参加者人数	
平成 18 年度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 台所をでたプラスチックごみはどこへ行く (22 人) ・ 日本中世を生き延びる (18 人) ・ あそびってなーに?—あそびと成長— (19 人) 	
平成 19 年度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 微生物のちから「日本酒」から「くすり」まで (43 人) ・ 有田焼“柿右衛門の赤絵”と“吹屋ベンガラ”の赤色を科学する —伝統技術に潜むナノテクの不思議— (33 人) ・ 海のちから—生命のふるさと, 資源の宝庫, そして気候変動の主人公— (37 人) 	
○相談受付件数	
平成 16 年度	2 1 2 件
平成 17 年度	1 3 9 件
平成 18 年度	1 1 3 件
平成 19 年度	1 7 0 件

(出典 : 事務局資料)

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断) 目標の達成状況が良好である。

(判断理由) 社会との連携強化のため, 研究推進・産学官連携機構を改組し, 専任教員の配置を行い, また, 本部長会議を開催し情報の統一・共有化を図り, 機構の活動が活性化した。また, 企業等との包括協定締結や様々な取組を通じて本学の研究情報を積極的に発信している。これらの結果, 共同研究や特許申請数の伸びに反映している。

共同研究等の受入れから契約までの一連の手続きの迅速化のため, 津島地区では研究交流部に産学連携推進課を設け, 受入から契約までを 1 課で実施する体制を整えた。

○小項目3「地域の公私立大学等との連携・支援に関する基本方針：大学教育に対する社会の期待や学生ニーズの多様化にさらに対応していくために、大学相互の連携を深める。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画3-1 ●86「教育研究の将来の発展という視点から、学術交流、単位互換等、地域の大学間連携を一層推進する。」に係る状況

本学が主体となり、県内15の四年制大学が国公立大学の枠を超え、単位互換や公開講座などを共同で行う連合組織「大学コンソーシアム岡山」が平成18年4月に発足（資料17-1：前出P55）し、現在四年制16大学と短期大学等で構成されている。

平成19年度には「大学コンソーシアム岡山」への連携として、単位互換事業の大学提供科目を103科目（資料35-1：前出P96）、地元銀行の寄付講座（1科目）を含むコーディネート科目を提供した。また、一般市民を対象とした市民講座（吉備創生カレッジ）へ7講座を提供した（資料86-1）。

資料86-1：吉備創生カレッジ：2007年度本学が開講する講座

	<p>〈前期〉 未来先端材料： 21世紀の産業の要である先端材料に関する講義を行う。21世紀の材料は、物理学や化学などの基礎科学と、ナノテクノロジーに代表される高度な技術の融合のもとに生み出される材料である。本講義では、20世紀の材料科学を支えた基礎科学を振り返るところから始めて、21世紀の材料を生み出すための基礎科学と先端技術について述べ、未来を切り開く先端材料を展望する。</p> <p>岡山県の農業最前線： 岡山大学農学部スタッフが岡山農業最前線の話と将来について、果物王国岡山（岡本五郎）、岡山の稲作（齊藤邦行）、岡山の鳥と牛（岸田芳朗）の3回シリーズで解説します。</p> <p>開発か環境か ー今なぜ環境問題なのか 今なぜ環境問題への取組みが私達に必要なとなっているのか。私達のくらしが大きく国際化しているなかで、わかりやすく解説する。</p> <p>〈後期〉 (省略)</p>
--	--

(出典：「大学コンソーシアム岡山」資料)

b) 「小項目3」の達成状況

(達成状況の判断) 目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 地域の公私立大学等との連携・支援に関して、共通の問題意識の確認作業からその糸口を見つけ、県内15大学をまとめて、国公立大学の枠を超えて、「大学コンソーシアム岡山」を設立した経緯は、地域の高等教育の在り方を見据えた、本学のリーダーシップによるものであり特筆される取り組みである。学内のコンセンサスのもとで、多数の単位互換事業の大学提供科目や、コーディネート科目を提供し、また一般市民を対象とした市民講座（吉備創生カレッジ）へは7講座を提供してその充実を図っている。

○小項目4「国際交流に関する基本方針：教職員や学生の国際社会での活動を支援・促進するとともに、優秀な留学生の受入れ並びに岡山大学学生の留学を推進し、国際交流の拡充を図る。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画4-1 ●87「国際交流推進機構を中核として、国際交流協定校との共同研究や留学プログラムの促進、また留学生相談窓口、外国人研究者・留学生宿泊施設の拡充など、外国人研究者、留学生を積極的に受け入れるとともに、受入れ体制をより一層整備・充実する。」に係る状況

本計画の取組として、留学生を対象とした意識調査及びEPOK（岡山大学短期交換留学プログラム）留学生のアンケート調査を実施し、特に要望の多かったEPOK科目及び日本語教育科目の充実について、平成17年度から「日本事情」、「英語教育事情」、「日本語初級集中」を開設した。また平成18年度からは「日本の無形文化遺産－伝統芸能に焦点をあてて」、平成19年度には「日本の無形文化遺産－伝統芸術に焦点をあてて」を開設し、開講科目を拡充した。

第2の取組と成果として、ベトナム国の人材養成を通じ、ベトナム国の持続的な発展に協力し、双方大学の大学院教育の教育研究のレベルアップを目的とした「岡山大学とフエ大学における岡山大学・フエ大学院特別コース協定」に基づき、平成19年9月、現地において第1期生の入学式を挙行了（資料24-2：前出P70）。

第3の取組と成果として、中国東北部5大学との大学院共同学位制度を特徴とする「大学院教育中国東北部重点構想（0-NECUS）」を策定し、平成19年1月には事業の足がかりとなる国際交流分室（長春、瀋陽）を設置し、共同学位をはじめとする相互交流制度を開始した（資料24-3：前出P71）。

これらの結果、平成20年5月1日現在、国際交流協定は、大学間（18か国・地域）、部局間（32か国・地域）で計155件におよび（資料87-1）留学生は、43か国から611名が在籍している（資料87-2）。また、国際交流活動を組織的に支援するため、平成19年度から国際交流推進機構と留学生センターを一元化し「国際センター」を発足させ、さらに、留学生相談・指導体制を強化するため、国際センターに非常勤の相談員を配置した（資料4-8：前出P20）。

資料 87-1：国際交流協定締結状況一覧（平成20年5月1日現在）

1) 協定締結数			
大学間協定	18か国・地域	48件	
部局間協定	32か国・地域	107件	
2) 地域別協定数			
アジア	13か国・地域	89件	（大学間 28件，部局間 61件）
オセアニア	2か国・地域	4件	（大学間 2件，部局間 2件）
ヨーロッパ （NIS諸国を含む）※	15か国・地域	41件	（大学間 8件，部局間 33件）
北アメリカ	2か国・地域	19件	（大学間 9件，部局間 10件）
南アメリカ	1か国・地域	1件	（大学間 0件，部局間 1件）
アフリカ	1か国・地域	1件	（大学間 1件，部局間 0件）

※ New Independent States：旧ソ連の新独立国のうちロシア連邦，エストニア，ラトビア，リトアニアを除く11か国

NIS諸国：アルメニア，アゼルバイジャン，ウクライナ，ウズベキスタン，カザフスタン，キルギス，グルジア，タジキスタン，トルクメニスタン，ベラルーシ及びモルドバの11か国

（出典：事務局資料）

資料 87-2 : 外国人留学生在籍状況一覧 (平成 20 年 5 月 1 日現在)

区分	大学院生		学部学生	研究生・その他	計	区分	大学院生		学部学生	研究生・その他	計	
	博士課程 Doctor's Course	修士課程 Master's Course					博士課程 Doctor's Course	修士課程 Master's Course				
アジア	中国		49	80(1)	391(5)	オセアニア			0	1	1	
	韓国	8(1)	3	19	4	小計	0	0	0	1	1	
	マレーシア	2	2	19	0	23	中南米					
	バングラデシュ	23	2	0	2	27	メキシコ	1	0	0	0	1
	ネパール	1	0	0	0	1	ブラジル	1	0	0	0	1
	インドネシア	11	2	0	2	15	パラグアイ	2	0	1	1	4
	パキスタン	1	0	0	0	1	アルゼンチン	1	0	0	0	1
	インド	1	0	0	0	1	ハイチ	1	0	0	0	1
	スリランカ	2	2	1	0	5	小計	6	0	1	1	8
	ミャンマー	5	1	0	2	8	北米					
	タイ	1	1	0	2	4	カナダ	0	0	0	1	1
	フィリピン	1	1	0	2	4	アメリカ合衆国	0	0	0	5	5
	モンゴル	0	0	2	0	2	小計	0	0	0	6	6
	ベトナム	3	2	0	1	6	ヨーロッパ (NIS 諸国を含む)					
	カンボジア	1	2	0	0	3	英国	0	0	0	3	3
台湾	2	1	1	1	5	アイスランド	0	0	0	1	1	
小計	169(5)	174	91	96(1)	590(6)	フランス	1	0	0	0	1	
中近東						ドイツ	0	0	0	3	3	
ヨルダン	3	0	0	0	3	セルビア	3	2	0	0	5	
トルコ	8	1	0	3	12	ルーマニア	0	0	1	0	1	
小計	11	1	0	3	15	ベラルーシ	0	1	0	0	1	
アフリカ						ロシア	1	2	0	0	3	
エジプト	13	1	0	0	14	ポーランド	0	0	0	1	1	
チュニジア	1	0	0	0	1	小計	5	5	1	8	19	
ナイジェリア	1	0	1	0	2	合計	214(5)	192	94	115(1)	605(6)	
ケニア	1	0	0	0	1							
ガーナ	3	1	0	0	4							
タンザニア	1	0	0	0	1							
モリタニア	1	0	0	0	1							
エチオピア	2	0	0	0	2							
小計	23	2	1	0	26							

※ ()内は兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の外国人留学生で、構成大学である岡山+大学(指導教員)に属する者を外数で示す。

(出典：事務局資料)

計画 4-2 ●88 「岡山大学の研究者、学生の海外派遣（留学）のための支援体制を国際交流推進機構と留学生センター等の関連組織が連携・協力して推進を図る。」に係る状況

本計画の取組として、夏期海外語学研修制度を充実させる方策を推進するため、既存の南オレゴン大学夏期語学研修に加えて、平成 18 年度から、アデレード大学春期語学研修を開始した。さらに、韓国成均館大学校との相互交流による語学研修を開始し、12 名を受け入れ、本学学生 6 名を韓国語研修として派遣した。平成 19 年度には、中国東北師範大学での語学研修の実施に向けた調整を行った。

学生の海外派遣を推進するため、平成 19 年度から前期、後期の 2 回に分けて TOEFL-iBT 講座を開講している。また、南オレゴン大学及びアデレード大学並びに成均館大学校での語学研修の説明会、TOEFL 説明会、留学説明会等を実施し、本学留学制度についての周知を図っている。

研究者の海外派遣については、本学国際交流基金による派遣、文部科学省事業、日本学術振興会事業等による派遣、JICA 専門家派遣等、積極的に実施している。

これらの成果として、平成 19 年度には、国際交流協定を締結している大学等機関に、本学学生 57 名、研究者 159 名を派遣した（資料 88-1）。

資料 88-1：協定大学等派遣状況一覧

相手側機関名			日本側部局名	派遣者数		
名称	相手側組織レベル	国・地域名	学部・研究科等名	教員	事務職員	学生
東北師範大学	大学	中国	直属	8	3	2
内蒙古農業大学	大学	中国	直属	7	0	0
中国科学院昆明植物研究所	研究所	中国	直属	3	0	0

岡山大学 社会連携

中国医科大学	大学	中国	直属	8	0	
大連医科大学	大学	中国	直属	4	0	
吉林大学	大学	中国	直属	14	3	
ボゴール農科大学	大学	インドネシア	直属	1	0	
ハサヌディン大学	大学	インドネシア	直属	3	0	
成均館大学校	大学	韓国	直属	4	0	
マヒドン大学	大学	タイ	直属	1	0	
カセサート大学	大学	タイ	直属	6	4	
ダラット大学	大学	ベトナム	直属	2	4	
フエ大学	大学	ベトナム	直属	15	9	
ハノイ工科大学	大学	ベトナム	直属	1	0	
国立台湾大学	大学	台湾	直属	17	0	1
サウスオーストラリア大学	大学	オーストラリア	直属	0	0	1
アデレード大学	大学	オーストラリア	直属	3	0	23
ノヴィサド大学	大学	セルビア・モンテネグロ(ユーゴスラビア)	直属	1	0	
シェフィールド大学	大学	イギリス	直属	2	0	1
カーディフ大学	大学	イギリス	直属	2	0	
エジンバラ大学	大学	イギリス	直属	3	0	
サンノゼ州立大学	大学	アメリカ合衆国	直属	1	0	3
カリフォルニア州立大学イーストベイ校	大学	アメリカ合衆国	直属	1	0	3
カンザス大学	大学	アメリカ合衆国	直属	1	0	2
ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	大学	アメリカ合衆国	直属	2	0	1
南オレゴン大学	大学	アメリカ合衆国	直属	2	3	16
メリーランド大学ボルチモア校	大学	アメリカ合衆国	直属	4	0	
北京大学法学院	大学	中国	法学部	1	0	
浙江大学農業生物技術学院	大学	中国	農学部	4	0	
北京大学化学及び分子工程学院	大学	中国	理学部	1	0	
東北大自動化学研究センター	センター	中国	自然科学研究科	1	0	
大連大学生物工程学院	大学	中国	農学部	1	0	
江原大学校経営大学	大学	韓国	経済学部	3	0	2
全南大学校農業植物ストレス研究センター	センター	韓国	資源生物科学研究所	3	0	
チェンマイ大学理学部	大学	タイ	理学部	2	0	
チュラロンコン大学理学部	大学	タイ	理学部	2	0	
チュラロンコン大学理学部	大学	タイ	自然科学研究科	3	0	2
チュラロンコン大学医学部	大学	タイ	医学部	4	0	
ルイ・パスツール大学物理科学部	大学	フランス	理学部	1	0	
ムルシア大学獣医学部	大学	スペイン	自然科学研究科	1	0	
バイロイト大学バイエルン地球科学研究所	大学	ドイツ	地球物質科学研究センター	1	0	
チュービンゲン大学地球科学部	大学	ドイツ	環境理工学部	1	0	

ヘルムホルツ環境研究センター	センター	ドイツ	環境学研究科	1	0	
グダニスク工科大学水環境工学部	大学	ポーランド	環境理工学部	1	0	
ポルト大学工学部	大学	ポルトガル	工学部	1	0	
ラフボロー大学理学部	大学	イギリス	工学部	5	0	
ウォータールー大学工学部	大学	カナダ	工学部	1	0	
カーネギー研究機構地球物理研究所	大学	アメリカ合衆国	地球物質科学研究センター	3	0	
パーデュー大学理学部	大学	アメリカ合衆国	自然科学研究科	1	0	
サンパウロ大学歯学部	大学	ブラジル	歯学部	1	0	
合計				159	26	57

(出典：事務局資料)

計画 4-3 ●89 「国際交流の推進のため、国際交流推進機構を中核として、国際研修プログラムや国際交流協定校へ事務職員を相互に派遣する制度を整備し、国際化に対応できる専門職員の養成・育成等を図る。」に係る状況

事務職員の海外派遣については、既存の文部科学省及び日本学術振興会の長期海外派遣制度の活用や本学国際交流基金による派遣及びソフトバンク基金（旧ジェイホン）海外研修制度により、交流協定締結校等へ派遣している（資料 89-1）。また、事務職員英語研修の上級者を対象に、南オレゴン大学へ1ヶ月間程度のインターンシップ研修として、平成 20 年度に協定書を締結し派遣することとしている。

また、ベトナム、中国に海外事務所を設置し、国際化に対応できる専門職員の育成を目的に、平成 19 年度には学長裁量経費により 6 名の若手職員を派遣した。

資料 89-1：事務職員海外派遣状況一覧

日本学術振興会による海外派遣実績					
日本学術振興会が国立大学及び大学共同機関（以下「大学等」という。）の事務系職員を対象として、国内実務研修、海外実務研修及び語学研修を実施することにより、国際交流に関する幅広い見識と高度な実務能力を有する専門的な職員の養成を図り、もって大学等における国際化の推進を図り、国際交流業務の充実に資することを目的とする。					
平成 17 年度 1 名 米国（日本学術振興会ワシントン研究連絡センター）					
平成 19 年度 1 名 米国（日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター）					
事務職員海外派遣研修（ソフトバンク基金＝旧ジェイフォン）による海外派遣実績					
年度	部局・職名・派遣者名	派遣先	派遣目的	派遣期間	
16年度	学生支援課留学生支援担当主査	1名	台湾	日本留学フェア参加のため	16.7.15～16.7.19
	学生支援課留学生支援担当専門職員	1名	タイ	日本留学フェア参加のため	16.11.5～15.11.8
	工学部庶務係長	1名	ドイツ（ベルリン自由大学）、ポルトガル（ポルト大学）	国際交流の現状及び研究協力のあり方等の研修のため	16.10.7～ 16.10.14
	申請 4件 採択 3件				
17年度	学生支援課留学生支援担当専門職員	1名	マレーシア	日本留学フェア参加のため	17.8.19～17.8.24
	学生支援課就職支援担当主査	1名	ベトナム	日本留学フェア参加のため	17.11.25～ 17.12.2
	企画評価課目標・計画担当係	2名	アメリカ（ジョージワシントン大学他）	アメリカにおける第三者による評価認定について、評価機関側の大学への対応及び大学側の自己評価、評価機関への対応等について調査のため	17.10.31～ 17.11.5
	申請 5件 採択 4件				
18年度	環境理工学部	3名	タイ（カセサート大学カンペンセン校）	国際交流の現状、研究協力のあり方、学生の国際交流の支援体制等の実情調査のため	18.11.3～18.11.8
	学務企画課主任	1名	ベトナム	日本留学フェア参加のため	18.11.23～18.11.28
	学生支援課短期留学係長	1名	オーストラリア（アデレード大学及びサウスオーストラリア大学）	岡山大学春期語学研修の引率及びEPOKに関する打合せのため	19.2.23～19.3.2
	申請 6件 採択 6件（うち1件辞退）				

岡山大学国際交流基金（教職員の海外派遣）による事務系職員の海外派遣実績

年度	部局・職名・派遣者名	派遣先	派遣目的	派遣期間
17年度	国際交流課長 1名	ベトナム（ハノイ工科大学、フエ大学、ダラット大学他）	教育研究拠点形成のための調査のため	17.12.11～17.12.18
18年度	理学部事務長 1名	中国（北京大學化学院、法学院）	国際交流協定締結のため	18.10.24～18.10.29
	国際交流課長 1名	台湾（東華大学、高雄大学、台湾大学）	国際交流関係打合せのため	18.8.21～18.8.25
19年度	学務企画課長 1名	ベトナム（フエ大学）	フエ大学院特別コース入学式出席のため	19.9.19～19.9.24
	環境理工学部専門職員 1名	タイ（カセサート大学カンペンセン校）	部局間協定締結後の教育システム構築及び交流体制に関する協議のため	19.11.10～19.11.14
	国際課専門職員 1名	ベトナム	日本留学フェア参加のため	19.11.22～19.11.27

（出典：事務局資料）

計画4-4●91「国際交流推進機構を中核として、国際交流協定校等と情報ネットワーク基盤の整備や相互に海外サテライト・オフィスを設置するなどにより、海外の大学、研究機関との連携交流を推進する。」に係る状況

平成19年3月にベトナム・フエ大学内に岡山大学ベトナム事務所を設置し、本学とフエ大学との共同プロジェクトとなる岡山大学・フエ大学院特別コースを稼働させ同年9月には入学式を行った（資料24-2：前出 P70 参照）。また、当該事務所を基盤としてベトナムの各大学への広報活動の結果、ダラット大学への日本語教員の派遣及びEPOKによる学生の派遣等のプロジェクトが決定している。さらに、中国瀋陽、長春に岡山大学－中国東北部大学院留学生プログラムのための事務所を設置した（資料90-1、資料24-3：前出 P71 参照）。

資料90-1：岡山大学海外事務所設置関連資料

国立大学法人岡山大学・岡山大学ベトナム拠点事務所設置について 1/2 ページ

トピック（平成19年3月29日掲載）

岡山大学ベトナム拠点事務所設置について

岡山大学は、3月27日（火）、ベトナム中部のフエ市にある、国立工科大学において、本学初の海外拠点事務所となる「岡山大学ベトナム事務所」の開所式を行いました。開所式には、フエ市人民委員副委員長 Ngo Hoa 氏、在ベトナム日本大使館総務参事菅前田未氏、JETROハノイセンター所長石渡健次郎氏などが、本学から、千葉喬三学長、田中宏二教育・学生担当理事・副学長、梶原憲一理事などが出席し盛大に行われました。

本事務所は正式名称を「岡山大学ベトナム事務所」（英文名：Okayama University Office in Hue, Vietnam）と称し、現地スタッフを常駐させ、広くベトナム全域を対象に本学の広報活動や留学生への教育活動を行います。

本学では、日本貿易振興機構（JETRO）の支援による日本企業ベトナム進出が行われるようになったのを機に、現地で日本の就職意欲や学位取得を目的とした日本の大学への留学意欲が高まっていることに着目しました。

また、第3期科学技術基本計画及び国際教育協力懇談会報告書「優秀な研究者の養成」及び「高度な職業能力を持つ人材養成」を行うため、ベトナムに拠点事務所を設置して、優秀な人材に先んじて獲得し、本学の教育機能をもって育成する方針をとり、昨年7月にダラット大学（南部）、昨年10月にフエ大学（中央部）として今年2月にはハノイ工科大学（北部）と大学間交流協定を締結しました。

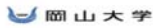
一方、世界レベルで深刻化する環境問題に関し、大学院環境科学研究科を設置する本学においては、発展途上国における貧困層の解決とESD持続可能な開発のための教育等の知的貢献の可能性を感じ、最も効果的な成果が得られるベトナム中部に着目し、拠点事務所をフエに開設することとしました。その活動の一プロジェクトとして、地域環境を損なうことなく農林水産業の生産性を向上させるに資する人材を育成するための大学院特別コース（修士）を設け、本年9月から開始することとしました。

このことは、本学の若手教員に対し海外の大学で教育する機会を与え、国際的に活躍する優秀な研究者の養成にもつながります。

また、JETROを通じ、岡山県からベトナムに進出している企業に対し、ベトナムの学生を教育するための寄附を募り、奨学金制度確立させ、教育の分野での産学連携を図っていく予定です。

（文責：研究交流部国際交流課）

http://www.okayama-u.ac.jp/jp/topic/topic190329.html 2008/03/27



English | サイトマップ

検索

岡山大学—中国東北部大学院留学生交流プログラム(O-NECUS)始動

このほど岡山大学は、優秀な研究者の養成を図るため、中国東北部の9大学(※1)と共同プログラム「岡山大学—中国東北部大学院留学生交流プログラム」(通称:O-NECUS ※2)を立ち上げ、長春と瀋陽の2ヶ所に事務所を設置しました。岡山大学の海外事務所としては、3月に設置したベトナム事務所が続くものですが、中国国内事務所としては最初で、しかも複数の事務所として中国との交流拠点となります。

19年8月3日 岡山大学長春事務所開設 東北師範大学内
19年8月6日 “ 瀋陽事務所開設 中国医科大学内

長春事務所長には自然科学研究科の古賀隆治教授(東北師範大学客員教授)が、瀋陽事務所長には医歯薬総合研究科の永井教之教授(中国医科大学客員教授)が兼任教授として就任しました。

2カ所の事務所開設と同時にサマーセミナーを実施し、本年9月に入学した中国側の修士課程の学生に説明会を行いました。

このセミナーはO-NECUSへの特別選抜入試の意味もあり、優れた留学生を海外入試により選抜するプログラムは本学で最初となります。このプログラムによる第1期生が岡山大学を訪れるのは平成21年4月です。受け入れる研究科は現在のところ、教育学研究科、社会文化科学研究科及び医歯薬総合研究科の3研究科となっています。海外入試は毎年1-2月、5月に実施されます。岡山大学の大学院生も中国各大学へ留学できます。

プログラムメニューは以下のとおりです。

【メニュー】

1. 共同学位(ダブル・ディグリー)制度
2. 短期留学(単位互換)制度
3. ウィンター(1-2月)、サマー(5月)セミナー制度(特別選抜入試を含む)

※1 9大学・・・ハルビン医科大学、吉林大学、東北師範大学、中国医科大学、遼寧科技大学、大連医科大学、大連輕工業学院、東北農業大学、東北大学

※2 O-NECUS・・・中国東北部大学院留学生交流プログラム
Okayama University - North East China Universities Platform "Graduate" Student Exchange Programの略称

(文責:学務部国際課)



瀋陽事務所前にて
(中央左より永井事務所長、趙学長、清水副学長)



長春事務所前にて
(左より、清水副学長、古賀事務所長)



説明会の様子(中国医大)



アクセスマップ | プライバシーポリシー | お問い合わせ

(出典:事務局資料)

b) 「小項目4」の達成状況

(達成状況の判断) 目標の達成状況が良好である。

(判断理由) 平成19年度から国際交流推進機構と留学生センターを一元化し「国際センター」を発足させ、留学生に対しては、その相談・指導体制を強化するために非常勤の相談員を配置すると共に、教育科目に関するアンケートを実施し、その結果を参考にして充実に努めている。学生の海外派遣に関しても、実施地域、時期、内容の多様化を考慮して充実に努めると共に、TOEFL-iBT講座を開講した。国際交流推進についても、ベトナム・フエ大学構内にベトナム全体を対象とした岡山大学の事務所の開設、及び中国瀋陽・長春に岡山大学-中国東北部大学院留学生プログラムのための事務所を設置した。

○小項目5「教育研究活動に関連した国際貢献に関する基本方針：諸外国の大学，研究機関，企業等と教育研究活動に関連した連携・交流することにより国際的に貢献する。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画5-1 ●91「国際交流推進機構を中核として，国際シンポジウムなどの開催，国際共同研究など，教育研究活動面での連携・交流活発化を推進する。」に係る状況

本学が進めている主要な国際交流プロジェクトとしては，これまで説明してきたフェ大学院特別コースプログラム，O-NECUSプログラム，後述する岡山大学インド感染症共同研究センターがある。いずれも現地に拠点を形成し活動を開始しているが，本学の教職員にも広く啓発するため，現地から主要な関係者を招聘し，本学にて国際シンポジウムを開催している（資料91-1）。

また，平成19年度には，大学間協定を締結しているインドネシアのハサヌディン大学と，救急・災害医療及び感染症に関し共同研究を開始し，双方でシンポジウムを開催すると共に，先方の要望もあり，岡山市の消防局より特別に譲渡された救急車を寄贈した。

さらに，本学国際交流基金の項目及び配分金額について見直しを図り，国際研究集会及び国際共同研究への支援，外国人留学生への支援，研究者招聘支援への増額を図り，教育研究活動での諸外国との連携・交流を活発化させている（別添資料91-1：国際共同研究等一覧）。

資料91-1：シンポジウム資料

岡山大学－中国東北部大学院教育・研究、産学官連携への展望 公開シンポジウム（参加自由）案内

日時：2007年11月29日（木） 13：45～17：00
場所：岡山大学50周年記念館（津島）

1. 本学学長挨拶
2. 岡大に期待する日中連携 中国大使館2等書記官 魏鍾原（元岡大留学生）

岡大－中国東北部6大学院 留学生交流プログラム（O-NECUS）

1. O-NECUS（双方向学位等）の概要と2008年開始
O-NECUS企画WG 座長 永井教之
2. 吉林大学（長春）－社会文化科学研究科の連携
吉林大学 東北亜研究院 副院長 尹 豪
3. 中国医科大学（瀋陽）－医歯薬学総合研究科の連携
中国医科大学 大学院 副院長 張 忠志

岡大中国事務所の役割と産学官連携の輪動

1. 岡大 長春事務所と瀋陽事務所の設置と役割
長春事務所 所長 古賀隆治
2. 中国東北部（人連）の産学連携への期待
大連市大阪事務所 所長 高 拱福

附議：中国制大代表
東北師範大学副学長 張 紹保 吉林大学医学院副院長 孫 連坤
大連医科大学副院長 張 嘉寧 ハルビン医大大学院副院長 方 傳龍

主催：岡山大学 国際センター
O-NECUS企画運営 WG（学内COE「岡大－中国東北部9大学連携の大学院教育共同プログラム」2007-2009、大学院教育CP「ユニット教育による国際保健実践の人材育成」2007-2009）

代表世話人 永井教之 医歯薬学総合研究科（岡大瀋陽事務所長）
nor@md.okayama-u.ac.jp
古賀隆治 自然科学研究科（岡大長春事務所長）
koga@cne.okayama-u.ac.jp
荒木 壽 社会文化科学研究科（副研究科長）
araki@cc.okayama-u.ac.jp
内 晶 大連医科大学 教授
xiaoxiao60us@gmail.com

（出典：事務局資料）

別添資料91-1：国際共同研究等一覧

計画 5-2 ●92 「国際交流推進機構を中核として、国際開発サポートセンターを通じた国際援助機関が行う人材育成事業への参画及び独立行政法人国際協力機構（JICA）や地方公共団体との連携による専門家の派遣，研修員の受入れにより発展途上国への教育・研究協力及び社会貢献を推進する。」に係る状況

本計画の取組として、インド国を拠点とした新興・再興感染症研究が展開している。本学薬学部の、長年にわたるインド国立コレラ及び腸管感染症研究所（NICED）との共同研究（JICA の援助）を背景に、本プロジェクトは文部科学省の「新興・再興感染症研究拠点プログラム」に採択され、NICED 内に「岡山大学インド感染症共同研究センター」を平成 19 年 12 月に設立し（資料 59-2:前出 P142），現在本学からは、研究者 3 名、事務職員 1 名が常駐している。

また、環境学研究科が中心となり、地域において持続可能な社会を創造するための人材を育成することを目標として、国連教育科学文化機関（ユネスコ）にユネスコチェア（ユネスコ講座）の申請を行い、平成 19 年に認証され活動を開始している（資料 22-3:前出 P65）。

また、岡山県が中心となって県内 NGO 団体及び国際関係団体、企業、メディア等が協働した「岡山発国際貢献推進協議会（平成 18 年 10 月設立）」に参画し、国際貢献に寄与するとともに、JICA を通じて専門家を派遣している（資料 92-1）。

資料 92-1：JICA 専門家派遣状況

年度	派遣国	派遣目的
平成 16 年度	インド	インド・下痢症対策(フェーズ 2)短期派遣専門家（環境微生物学）
	インド	インド・下痢症対策(フェーズ 2)短期派遣専門家（臨床微生物学）
	マレーシア	マレーシア・対 CLMV 環境保護研修・在外技術研修講師（日本における環境条約への取り組み）
平成 17 年度	インドネシア	インドネシア・電気系ポリテクニク教員養成計画（ネットワークセキュリティー 2）
	ケニア	ケニア国小規模園芸農機組織強化計画事前評価調査（園芸作物 1）
	南アフリカ	南アフリカ共和国・ムブマランガ州中等理数科教員再訓練計画フェーズ 2（理科（物理・化学））
	インドネシア	インドネシア・電気系ポリテクニク教員養成計画（ネットワークセキュリティー 2）
	中国	中華人民共和国・日中林業生態研修センター計画プロジェクト（林業技術分野（1））
	インド	インド・下痢症対策（フェーズ 2）（臨床微生物）
	南アフリカ	南アフリカ共和国・ムブマランガ州中等理数科教員再訓練計画フェーズ 2）
平成 18 年度	インドネシア	インドネシア・電気系ポリテクニク教員養成計画（コンピュータネットワーク）
	中国	中華人民共和国・四川省森林造成モデル計画プロジェクト（森林管理）
	インド	インド・下痢症対策（フェーズ 2）運営指導調査
	ラオス	ラオス・理数科教員養成（物理教育）
	中国	中華人民共和国・林業技術分野（2）
	インド	インド・下痢症対策（フェーズ 2）（臨床微生物学）
	インドネシア	インドネシア・第 3 国研修 情報技術教育手法在外技術研修講師（コンピュータネットワーク特論）
平成 19 年度	ラオス	ラオス・理数科教員養成プロジェクト（物理教育）
	中国	中華人民共和国・日中林業生態研修センター計画プロジェクト（林業技術（北方））
	メキシコ	メキシコ・3R に基づく廃棄物管理政策策定プロジェクト
	インド	インド・下痢症対策（フェーズ 2）
	インド	インド・下痢症対策（フェーズ 2）

（出典：事務局資料）

b) 「小項目5」の達成状況

(達成状況の判断) 目標の達成状況が良好である。

(判断理由) 国際交流の促進のため、大学独自の国際交流基金の項目及び配分を見直し、年間あたりの補助総額を増やすと共に、新規事項として、私費留学生の国民健康保険料の一部補助を開始した。大学間の交流においては、国際センターが中心となり、ベトナムのフエ大学、中国東北部の5大学(O-NECUS)と精力的に進めている。また、文部科学省の「新興・再興感染症研究拠点プログラム」の一つとして、薬学部が中心となり、インドのNICEDと共同研究を進めている。いずれも現地に拠点を形成し、大学院生の選考、講義、共同研究などを開始している。さらには、現地から主要な関係者を招聘しシンポジウムも開催している。さらに、国連教育科学文化機関(ユネスコ)に認証された岡山大学ユネスコチェアは、世界で約600あるプログラムのうち環境部門ではアジアで初めてのものである。このことは、これまでの実績を高く評価されたものであり、今後の活動が期待される。

②中項目 1 の達成状況

(達成状況の判断) 目標の達成状況が良好である。

(判断理由) 本学は、社会が抱える困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とし、我が国有数の総合大学の特色を活かし、高度な研究と充実した教育を実施し、その成果を社会に還元している。

教育連携協議会を立ち上げて、緊密な高大連携事業を推進しているほか、生涯学習として「岡山大学公開講座案内」及び「公開講座冊子」を作成・配布し、ウェブサイトでも公表している。また、岡山大学学術成果リポジトリの構築等により、本学の教育研究の成果を広く社会に還元する仕組みを整えている。産学官の連携については、研究推進・産学官連携機構を改組し、専任教員を配置し、企業等との包括協定締結や様々な取組を通じて本学の研究情報を積極的に発信しており、その結果は共同研究や特許申請数の伸びに反映している。

国際交流については、平成 19 年 3 月にベトナム・フエ大学内に岡山大学ベトナム事務所を設置し、岡山大学・フエ大学院特別コースを稼働させているほか、ベトナムの各大学への広報活動を進め、ダラット大学への日本語教員の派遣及び EPOK による学生の派遣等のプロジェクトの実施が決定している。さらに、中国瀋陽、長春に事務所を設置し、岡山大学-中国東北部大学院留学生プログラムを進めている。また、文部科学省の「新興・再興感染症研究拠点プログラム」の一つとして、薬学部が中心となり、インド国立コレラ及び腸管感染症研究所と共同研究を進めている。

③優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

1. 生涯学習として、一部の公開講座については、e-Learning 教材をウェブサイトで公表し、実際に大学に来る機会が得られない学習者の学習ニーズにも応えられるようにしている。(計画 1-1)
2. 産学官の連携については、研究推進・産学官連携機構を改組し、専任教員を配置し、企業等との包括協定締結や様々な取組を行うほか、共同研究等の受入れから契約までの一連の手続きの迅速化を進め、研究交流部に産学連携推進課を設け、受入から契約までを 1 課で実施する体制を整えた。(計画 2-1)
3. 国際交流活動を組織的に支援するため、平成 19 年度から国際交流推進機構と留学生センターを一元化し「国際センター」を発足させ、さらに、留学生相談・指導体制を強化するため、国際センターに非常勤の相談員を配置した。(計画 4-1)
4. 国連教育科学文化機関(ユネスコ)に認証された岡山大学ユネスコチェアは、世界で約 600 あるプログラムのうち環境部門ではアジアで初めてのものである。このことは、これまでの実績を高く評価されたものであり、今後の活動が期待される(計画 5-2)。

(改善を要する点)

1. 現在、留学生としては、世界 46 カ国から約 600 名を迎えているが、留学生用の宿舎は非常に不足している。現在、職員用の宿舎の一部を留学生用に転用することを計画しているが、宿舎の確保は早急に解決しなければならない点である。(計画 4-1)

(特色ある点)

1. 地域の公私立大学等との連携・支援に関して、共通の問題意識の確認作業からその糸口を見つけ、県内 15 大学をまとめて、国公立立大学の枠を超えて、「大学コンソーシアム岡山」を設立した経緯は、地域の高等教育の在り方を見据えた、本学のリーダーシップによるものであり特筆される。(計画 3-1)